

大好きなお米

登米市立新田中学校 1年 守屋 朱莉

私の家は、農家です。でも、田んぼがあっても、お米は作っていません。転作でいろいろな野菜を作って売っています。

米作りは、小学校の時にバケツ稲の観察をしたり田んぼに行って田植えをしたり、稲刈りをしたりしました。だから、お米を作るのは、大変だとくらいか知っています。

日本の主食は、ご飯です。毎日、あたり前のように食べていますが、お米になるまでの農家の人の苦勞を知っているので、感謝して食べています。

今年も、あと一カ月くらいで新米ができます。私の家では、親せきの家から新米も貰います。お米を貰うと、精米所に行きます。貰った米は、玄米なので茶色です。それを、機械に入れると白色でピカピカのお米が出てきます。それを見ると、早く新米のご飯が食べたくてお腹が「ぐー」と鳴りそうになります。

私が、宿題をしていると台所から温かい空気といつもより甘いにおいがただよってきます。私は、早く新米が食べたいので、炊飯器を見にいくと、まだ炊き上がっていませんでした。ですから私はガッカリしました。

「あと、どのくらいで食べられるの？」

と祖母に聞くと、

「あと、二十分くらいしないとダメかな」

と言われました。しかたなく宿題の続きをしました。ご飯のことを考えながら「まだかなあー、まだかなあー」と思いながら時間が経つのを、待っていました。

「朱莉ー、ご飯が炊けたよー」

と、祖母から声がかかりました。私は、嬉しくて炊飯器の前に走って

いきました。

「新米のご飯は、どうかなあー」

とつぶやきながら炊飯器のフタを開けました。白い湯気がフワーと出てきてにおいはさっきかいだ甘い香りです。ご飯は白くつるんとつやつやに輝いていました。口の中が、早く食べたくてうずうずしました。しゃもじでご飯をすくうとジュワーと音がしました。ラップで小さいおにぎりを作って味塩をかけて熱いので、息を吹きかけてさましながら食べました。

「美味しい美味しい」

と言いながらもう一個作ろうとしたら、

「ダメ、仏だんにあげてご先祖様にごちそうして夕食で食べようね」と祖母に言われました。

私の家では、初めて新米を食べる時は塩さけかさんまの塩焼きがおかずで出ます。私は魚があまり好きではないけれど、この時は新米のご飯に一番合うおかずだと思って、美味しく頂きます。

ご飯は、いろいろな食べ方があります。焼き肉には白いご飯。カレーライスや牛丼、チャーハンが大好きです。おにぎりやお寿司にもなります。

病気の人やお年寄りの人には、おかゆにして食べてもらいます。いろいろな食べ方があって本当に日本人には大事な主食です。

大切にお米を育ててる農家の人がいて美味しく料理してくれる家族や料理人がいて、みんながお米を美味しくいつまでも食べられる生活が続いてほしいです。

私たちにとって、お米は体のためにも、心のためにもエネルギーを作る大切なものです。

田んぼを見ると、稲がいっぱい穂をつけて色づいてきました。今年の新米は、もうすぐ食べられそうです。その時まで楽しみに待っていたいです。